



総題 「ローマの信徒への手紙」における贖い

アドベンチスト聴覚しょうがい者友の会教材部

第11課 恵みによる選び 浦島智加男 2010, 9, 4 ~ 2010, 9, 11

1. はじめに 9月4日（土曜日）

タイトルの「^{えら}選び」というのは、神様が神の民となる人間を、一つの民族^{みんぞく}、あるいは個人から選ばれたことを意味します。神の民は、神様が人間を救うために、救いの計画すなわち福音^{ふくいん}を、神様を知らず、福音を聞いたことのない人々に伝える器^{うつわ}となるためです。

旧約聖書の時代はイスラエル民族を神の民^{たみ}として立てられました。新約時代は、一つの民族ではなく、イエス・キリストを信じる個人個人が神の民^{こじん}として選ばれました。

イスラエル民族が、神の民に選ばれたのは、その民が清く立派な人々で、特別に素晴らしい才能^{さいのう}を持っていたからという理由ではありませんでした。クリスチャンとなった人々もそうです。I コリントの手紙1章26節~29節に書いてある通り、人間的に見て、知恵があったとか、能力が優^{すぐ}れていたとか、家柄^{いえがら}が良いというわけでもない、「無^むに等^{ひと}しい者」をあえて選ばれたとあります。

それは「神の前^{ただ}で誰一人、誇^{ほこ}ることがないように」「主を誇る」ようにされるためでした。ところがイスラエルの民は、長い民族の歴史の中で、神さまが他の民族が持っていない才能^{さいのう}を与えられ、他の部族^{ぶぞく}がイスラエルに攻めて来た時など、神さまご自身が、先頭^{せんとう}に立って攻めて来た人々を打ち負かされたりするのを見るにつけ、いつの間にか、ああ、自分たちはほかの民族より偉^{えら}いのだ、自分たちには神様が^{りっぱ}ついていてから立派なんだとうぬぼれるようになって行きました。

これを「選民意識^{せんみんいしき}」と言います。この選民意識が強くなって、福音を伝えるどころか神様を知らない異邦人^{いほうじん}をバカにしたり、見さげるようになって、神の器^{やくめ}としての役目を忘れてしまいました。

こうして、せっかく人間となり、罪人を救うために天からお出でになったメシア、イエス様さえ殺してしまい、神の民としての役割^{やくわり}を果たさなくなったイスラエル民族を「神の民」からはずされたのです。

2. 律法の目標 9月5日（日曜日）

神のみ心、神様のご性質^{りかい}を理解し、人間が罪びとであることを理解させるために、イスラエル民族に十戒をはじめ、礼典律^{れいてんりつ}、民法など様々な律法^{さまさま}を与えられたのですが、彼らはこれを間違^{かいしゃく}って解釈し、この律法を人間が力で守れば、救われるという「行いによる義」という方向に行ってしまいました。律法の与えられた目的も分からなくなりました。

3. 恵みによる選び 9月6日（月曜日）

イスラエルの民が神の民として選ばれたとき、彼らは農耕民族で、国としての力も富も持っ

ていませんでした。しかし、選民となつてからは、神様が様々な恵みをイスラエルの人々にお与えになつたので、選民意識が増し加つて、神様が選んで下さつた最初の目的を見失ひ、かたくな（がんこ）な国民になっていきます。

神様の言われることに、耳をふさいで、その結果自分の心をかたくなにしていくことを、聖書は、あたかも神様がそう仕向けられたかのように表現するのは、ここだけではありません。たとえば、イスラエルの初代の王に選ばれたサウル王が、神様のみ心に反する行動をとるようになります。家臣のダビデが良い働きをするのを妬んで、ダビデを何度も殺そうとします。その時、列王記には「神から出てくる悪霊がのぞんで」サウル王にそうさせた、と書いてあります。神様が悪霊を持っておられるはずはないのに、このように書くのは、聖書独特な表現です。

4. 接ぎ木された枝 9月7日（火曜日）

何千年間も神の恵みを体験し、預言者によって教えられた神知識の素晴らしさは大きな木のように成長してきました。そのように、大きな知識を蓄え、それを周囲の人たちに伝え、多くの人を神様のもとへ連れてくる大切な役目があることをわすれ、その宝を自分たちの中にしまい込んでしまいました。これでは神の器としての用をなさなくなりました。

そこで、神様はこの大木を切り倒すことを決意されます。それ以来、一つの民族を神の民とするのではなく、イエスキリストを信じる個人を神と民とする方針を立てられました。それがクリスチャンです。それで、クリスチャンは、霊的イスラエル、新しいイスラエルと呼ばれます。切り倒された木は、枯れてしまったのではなく、根と幹と枝が残っていました。その枝に接ぎ木されたのが私たちクリスチャンです。

接ぎ木された穂は、元の木の養分を吸って生きられます。キリスト教は、イエス様の後、全く新しくできた宗教ではなく、旧約聖書とユダヤ教の豊かな養分をいただいて育ってきた宗教なのです。

5. 6. 秘められた計画が啓示される 9月8, 9日（水、木曜日）

ここで、パウロはクリスチャンに、一つの警告を与えています。クリスチャンのあなたが、ユダヤ人たちはなんて愚かだったんだろう、私たちは、新約聖書が与えられ、彼らユダヤ人より、賢いのだ、立派なのだと自分を誇るとしたら、昔のユダヤ人と少しも変わらないじゃありませんか。あなたもユダヤ人同様に切り倒されるかもしれませんよ。誇るのではなく、むしろ、神から選ばれていることに畏敬の念（おそれるおもい）を持ちなさい。神様は、用をなさなくなったユダヤ人を惜しまなかったように、あなたが救われたことに感謝しないで、福音をのべ伝える働きを少しもしないのなら、あなたを惜しむこともなさらないでしょう。

でも、一度主を拒んだイスラエル人がもう一度、悔い改めてイエス様をメシアと捉え直し、クリスチャンとして戻ってくるなら、神様にとってこんなに嬉しいことはないのです。終末時代になると必ずそのようなことが起きるに違いありません、パウロは預言しています。

今、その預言が実現しつつあります。多くのユダヤ人がキリスト教に改宗することが起きています。それも、大勢のユダヤ人がです。この人たちを「ジューイッシュ・クリスチャン」と呼んでいます。彼らは、旧約聖書の知識にかけては、一般のクリスチャンよりはるかに上です。何しろ、幼い時から旧約聖書を暗記するぐらい教え込まれていますから。